

2026年6月2日

報道関係各位

GMO Flatt Security 株式会社

Takumi byGMO、「Mythos クラスモデル」一般公開後の搭載計画および 新機能「AI ペネトレーションテスト機能」を発表 ～日本企業のフロンティア AI 対応とセキュリティ底上げを支援～

GMO インターネットグループで「エンジニアの背中を預かる」をミッションに、プロダクト開発組織に向けたサイバーセキュリティ関連事業を展開する GMO Flatt Security 株式会社（代表取締役社長：井手 康貴 以下、GMO Flatt Security）は、セキュリティ AI エージェント「Takumi byGMO」諸機能に対して、Anthropic 社の「Mythos クラスモデル」が一般公開され次第、搭載する予定であることをお知らせいたします。また、予期されるサイバーセキュリティに関する性能を最大限に活かした新機能「AI ペネトレーションテスト機能」を発表いたします。

各機能の提供を通じて、日本企業のフロンティア AI 対応とサイバーセキュリティの底上げを支援してまいります。



「Mythos クラスモデル」の搭載計画 および 新機能「AI ペネトレーションテスト機能」を発表

【セキュリティ AI エージェント「Takumi byGMO」とは】

「Takumi byGMO」は GMO Flatt Security が開発した、セキュリティ業務に特化した AI エージェントです。ブラックボックス診断（DAST/動的解析）・ホワイトボックス診断（SAST/静的解析）・脆弱性の自動修正機能により、脆弱性を検出し、修正パッチまで自動で作成するセキュリティ診断を自律的に行う AI として、2025 年 3 月のリリース以来ソフトウェア開発組織における堅牢な実装を継続的に支援してきました。2026 年 3 月よりソフトウェアサプライチェーン領域における悪性パッケージのダウンロードをブロックする「Guard」機能と、CI/CD 環境として用いられるワークフローの動作を可視化する実行基盤「Runner」機能をリリースし、開発から日々の診断まで一貫してソフトウェアの安全を支援しています。



Takumi

by GMO

導入企業 (一部)

atama+

Azom

Kanmu

ゲーム8

KOMEHYO HOLDINGS

SORACOM

_KNOWLEDGE WORK

NIKKEI

PartnerProp

HACOBU

free

Findy

FINATEX HOLDINGS

prime Number

PLAID

MITSUI & CO. DIGITAL ASSET MANAGEMENT

【「Mythos クラスモデル」搭載の背景】

「Claude Mythos Preview」は、Anthropic 社が 2026 年 4 月に発表した汎用 AI モデルで、サイバーセキュリティ領域における高い性能が標榜されています。実際に既に 2.3 万件の脆弱性発見実績が開示されており^(※1)、金融庁や厚生労働省を含む政府機関からも、各重要機関に対して対応が要請される事態となっています^(※2)。

2026 年 5 月、Anthropic 社は新モデル「Claude Opus 4.8」を発表するとともに、数週間内に Mythos クラスのモデル (“Mythos-class models”) を全ての顧客に提供すべく動いていることを発表しました^(※3)。Mythos クラスのモデルの一般解禁は、正しく活用されればサイバーセキュリティの底上げに寄与しう一方、攻撃者による悪用が進む懸念も十分にあります。日本企業においても、積極的な AI 活用を通して自社の守りをさらに固め、攻撃者のスピード・技量の著しい向上に対抗することが求められています。

これまでも「Takumi byGMO」は、サイバーセキュリティに特化した日本初の AI エージェントとして 2025 年 3 月に提供を開始して以降、日本企業のセキュリティ業務の AI 化をご支援してまいりました。その機能は AI による脆弱性の洗い出しから、AI による自動修正まで多岐にわたります。内部では Anthropic モデルを含む複数 AI モデルを組み合わせており、これまでもモデル性能の成長と共に「Takumi byGMO」も能力向上してきました。

「Mythos クラスモデル」を、パイオニアである GMO Flatt Security の「Takumi byGMO」がいち早く取り入れて市場にお届けすることは、攻撃者による悪用に先んじて日本企業を守るための非常に重要なアクションであると考えています。「Mythos クラスモデル」一般公開後の搭載計画は、このような使命感のもと発表するものです。

(※1) <https://www.anthropic.com/research/glasswing-initial-update> (Project Glasswing: An initial update)

(※2) <https://www.fsa.go.jp/news/r7/sonota/20260522-5/20260522.html> (「フロンティア AI による脅威変化を踏まえた金融機関等の短期的な対応」に係る要請について)

(※3) <https://www.anthropic.com/news/claude-opus-4-8> (Introducing Claude Opus 4.8)

【「Mythos クラスモデル」一般公開後の搭載計画】

「Mythos クラスモデル」の一般公開後、「Takumi byGMO」の提供する各種機能には、以下のように同モデルを搭載する予定であることをお知らせいたします。「Takumi byGMO」が提供する各種機能への「Mythos クラスモデル」の搭載は、一般公開後、順次進めていく計画です。

対象となるのは以下の機能です。

これらの主要機能に同モデルを組み込むことで、より高度で包括的なサイバーセキュリティ環境の実現を目指します。

- ・ **AI ペネトレーションテスト機能（AI エージェントがゴール達成までシステム侵入を試行、新機能）**：同モデルの一般公開後、最大 5 営業日以内に搭載・提供開始
- ・ **AI セキュリティ診断・自動修正機能（AI エージェント脆弱性を自動的に発見・修正）**：現状水準のモデルでの提供を維持しつつ、特にビジネスロジックに関する検査及び修正で Mythos クラスモデル（及び相当のハイエンドモデル）の利用を指定できるモードを追加してご提供
- ・ **「Takumi Guard」、「Takumi Runner」機能（ソフトウェアサプライチェーンを保護する機能）**：基盤となる弊社 Threat Intelligence 基盤に先行投入し、マルウェアの発見・解析に利用。結果として従来よりも精度・スピードの高い OSS パッケージマルウェアの発見を実現

なお、弊社実施のベンチマークの範囲で必ずしも「Mythos クラスモデル」が必要ではないと認められたタスクに対しては、既存モデルを活用します。これにより、最小のコスト・最大の検査性能を実現します。

【新機能「AI ペネトレーションテスト機能」とは】

本計画の発表に伴い、特に「Mythos クラスモデル」の搭載が強い意味を持つ新機能として、「AI ペネトレーションテスト機能」を発表いたします。

本機能は、従来の脆弱性診断が単に脆弱性の有無を確認することに留まらず、実際の悪用可能性をより深く調査します。さらに、脆弱性の組み合わせによって生じるより大きな攻撃のインパクトを精査し、事前に定められたゴール（サービスからの機密情報抜き出し、サービス停止など）が実現できるかを実際に検証します。

脆弱性診断機能はより網羅的に漏れなく脆弱性を探することに特化しています。一方、新規に提供を開始する AI ペネトレーションテスト機能は、一定の網羅性よりも実際の脆弱性の悪用可能性や、最終的に事業に対して及ぼせるインパクトをあらゆる手を通して評価するものになります。同じ予算（トークン消費）であっても、複数の脆弱性を組み合わせた深い検証、よりハイエンドモデルのクリエイティビティを活かした検証が可能になります。

AI脆弱性診断機能

1 典型観点で疑似攻撃

様々な角度からシステムの機能・弱点を総ざらい

2 網羅性が確保される

	観点1	観点2	観点3
機能A	🔴	🔴	🔴
機能B	🔴	🔴	🔴
機能C	🔴	🔴	🔴

3 実際悪用できるかは要評価

AIペネトレーションテスト機能

1 ゴール目指して柔軟に疑似攻撃

必要な脆弱性を探し複数チェーンして利用

脆弱性 1 脆弱性 2

ゴール 顧客情報の奪取

2 網羅性は確保されにくい

	観点1	観点2	観点3
機能A	🔴	🔴	🔴
機能B	🔴	🔴	🔴
機能C	🔴	🔴	🔴

3 ありうる実被害が明快

【今後の展望】

公開が示唆されている「Mythos クラスモデル」に留まらず、都度最新のモデルを「Takumi byGMO」諸機能に投入し、その時点における最大の品質を実現してまいります。

GMO Flatt Security はコーポレートミッション「エンジニアの背中を預かる」のもと、ソフトウェア開発者の皆様が安心して開発に専念できる環境の実現に取り組んでまいります。

【GMO Flatt Security 株式会社について】

GMO Flatt Security は「エンジニアの背中を預かる」をミッションに、業界を問わず DX 推進・ソフトウェア開発のセキュリティを支援してきた、日本発のセキュリティプロフェッショナル企業です。セキュリティ製品の自社開発や様々な企業へのセキュリティ支援、徹底したユーザーヒアリングを通じて得た知見を元に、一つひとつの顧客組織に寄り添った伴走型のセキュリティサービスを提供しています。

■ 「エンジニアの背中を預かる」ための、エンジニア向けサービス群

- ・セキュリティエンジニアによる「脆弱性診断・ペネトレーションテスト」

URL : <https://flatt.tech/assessment>

- ・セキュリティ診断・ソフトウェアサプライチェーン攻撃対策特化の AI エージェント「Takumi byGMO」

URL : <https://flatt.tech/takumi>

- ・AWS 等クラウドの継続的な診断ツール(CSPM)「Shisho Cloud byGMO」

URL : <https://shisho.dev/ja>

- ・クラウド型セキュアコーディング学習プラットフォーム「KENRO byGMO」

URL : <https://flatt.tech/kenro>

※ 記載されている会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

- GMO Flatt Security 株式会社 広報

E-mail : pr@flatt.tech

- GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 望月

TEL : 03-5456-2695

お問い合わせ : <https://group.gmo/contact/press-inquiries/>

【GMO Flatt Security 株式会社】 (URL : <https://flatt.tech>)

会社名	GMO Flatt Security 株式会社
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役社長 井手 康貴
事業内容	■ サイバーセキュリティ関連サービス

資本金	4億3,042万円（資本準備金含む）
-----	--------------------

【GMO インターネットグループ株式会社】（URL：<https://group.gmo/>）

会社名	GMO インターネットグループ株式会社（東証プライム市場 証券コード：9449）
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代表者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿
事業内容	持株会社（グループ経営機能） ■グループの事業内容 インターネットインフラ事業 インターネットセキュリティ事業 インターネット広告・メディア事業 インターネット金融事業 暗号資産事業
資本金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO Flatt Security Inc. All Rights Reserved.